

明けましておめでとうございます。
謹んで新年のお祝いを申し上げます。

今年の年始は、全国ほとんどの地区で天候に恵まれ、穏やかな天気が続きました。皆様よいお正月を迎えられたこととお喜び申し上げます。

私の正月は、今年はちょっと違いました。昨年2月に98歳で父が他界し、9月には17歳半まで生きた我が家の黒ラブとお別れをしました。身近にこういう機会があまり無い生活をして来たため、いろいろ思うところもありました。父は常日頃から「百歳まで生きる」ことを目指していたので、残念でなりません。また、我が家の黒ラブとはほとんど毎日散歩をした仲でしたので、拍子抜けしてしまった感があります。正月となると、朝陽を拝みに連れて出かけた日々が懐かしい思い出です。

昨年年末30日の朝日新聞にはびっくりしました。SMAP 応援プロジェクトとして、1万3千人超のクラウドファンディングを活用して、8ページの全面広告にて個々人の名前を掲載しました。「いつもたくさんの愛と勇気をくれた SMAP へ」と題し、最後には「東日本大震災支援金」につなげていました。こんな新聞広告は見たことがありません。それだけ SMAP が解散することは大きな社会現象だったということでしょう。

SMAP の2003年のヒット曲に「世界で一つだけの花」という歌があります。この歌詞の中に「No1 にならなくていい もともと特別な Only One」という表現があり、これが当時は一世を風靡したように覚えています。ビジネスにもこの表現を取り入れて、「No1 ではなく Only One 企業を目指そう」なんて標語が流行ったと思います。現在はこの延長線上に、B 企業という呼称があると思っています。この B はベネフィット（恩恵）などの意味です。米国では高収益、高配当の企業が高評価を受けて（今も受けて）いますが、これからは社会に恩恵をもたらす B 企業が社会を変えていくとして期待されつつあります。これからの経営者は「企業」から「社会」を軸に会社経営が求められるそうですが、果たして日本でそれが成り立つかどうかはこれからの話になります。弊社も Only One 企業から B 企業を目指して、今年はその立ち位置をもっと明確にしたいと思っています。

年末に実家の本棚を整理していましたが、昔読んでいた、或は読もうとしていた本が沢山出てきました。その中に、かつてよく読んだ中原中也の本がありました。中原中也を評価しない方々もいますが、私には懐かしく、心揺さぶられた詩がたくさんあります。そのひとつに、中也22歳の時、同人誌「白痴群」創刊号に載せた「寒い冬の自画像」というのがあります。

寒い夜の自画像

(中原中也)

きらびやかではないけれど
この一本の手綱をはなさず

この陰暗の地域を過ぎる！
その志明らかなれば
冬の夜を我は嘆かず
人々の憔悴のみの愁しみや
憧れに引廻される女等の鼻唄を
わが瑣細なる罰と感じ
そが、わが皮膚を刺すにまかす。

蹠踉めくままに静もりを保ち、
聊かは儀文めいた心地をもって
われはわが怠惰を諫める
寒月の下を往きながら。

陽気で、坦々として、而も己を売らないことをと、
わが魂の願ふことであつた！

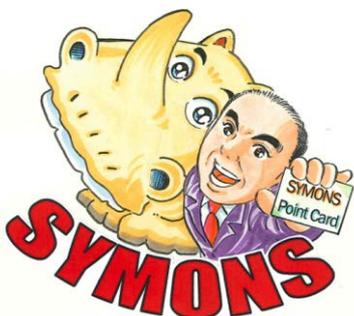
「その志明らかなれば、冬の夜を我は嘆かず」とか、「陽気で、坦々として、而も己を売らないこと」というような表現に若い頃は特に酔ったものです。読み返して見て、あの時の純粹さ(?)を思い出すとともに、まさに「今」も必要な心意気のように感じます。

陽気で、坦々として、己を売ること無く、日本の「B企業」を目指す・・・これがどうやら、今年の私の標題のようです。

先の朝日新聞ではありませんが、私もこの4月からの実稼働を目指して、気仙沼市の地域活性化のお手伝いを開始します。気仙沼市の行政、商工会議所及び観光協会等と一緒に、気仙沼地域全体での観光マーケティング施策の一貫として、気仙沼カードの発行を行う予定です。まだまだ震災の爪痕が残る気仙沼地域の活性化に、少しでもお役に立てることができれば、B企業を目指す弊社としては本望です。

それでは、引き続き倍旧のご厚情を賜りたく、お願い申し上げます。
今年一年の皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

平成29年元旦



株式会社サイモンズ
代表取締役社長
斉川 満